



アナ・ナタシの
「レッド・ランタン」



エディ・ポロ



フランシス・フォード



ポール・ホワイト



ダグラス・フェアバンクス
「バグダッドの盗賊」



活動写真から 「ラスト・タイクーン」まで

〈映画評論家〉
淀川 長治



いよいよ新しい年の幕開き。これが私に何を意味するか。なに？。死期近し？ちがいました。活動写真ノスタルヂイだ。

エディ・ポロの「的の黒星」からパール・ホワイトの「鉄の爪」からフランシス・フォードの「名金」からと連続大活劇の年の暮れ。かくて新春のニコニコ大会。キネマ倶楽部、朝日館、錦座。新開地は私の人生教室。

ナジモヴァの「レッド・ランタン」は（北京の55日）の裏面史的ロマン。「鼻が鳴いた」「また鳴いた」説明者（べんし）が胸つもらせてのそのひとことに私もゾツとした。北京の娘が祖母の手で足さきを龍刀で斬る儀式が始まる。中国古き習慣のてんそく。上流階級の娘は足さきをかぎり小さく見せる。アメリカ映画はそのてんそくを足さきを斬ると思つたのか。いやこの娘が高貴の富

豪に求められてのわか結婚儀式に祖母は思いあまつついでんそくをしていなかった孫娘の足さきを斬るうとするのだ。それも満月の夜に鼻が三度鳴けば斬る決意をする。

ダグラスの「バグダッドの盗賊」は特別興行で入場料もぐんとはね上つたが見て損なしだった。そのセツト美術の美しき。

これすべて大正初期から大正十四年という一九一五から一九二五の十年間。かくて昭和の今日まで映画に埋まつた私が昨日見たエリア・カザン監督「ラスト・タイクーン」（二時間三分）。いいとこ一杯悪いとこ一杯という映画。悪いとこはこの監督が「ブルックリン横丁」（一九四一）からやがて「欲望という名の電車」「革命児サバタ」「波止場」「エデンの東」から「アレンジメント」（一九

六八)とアメリカの(映画)にとっぷりつかってハリウッド生活二十六年の今日にいたっているのにやっぱりこのニューヨークの舞台演出家は(ハリウッド)の匂いが出せなかった。エリア・カザンはニューヨーク人だった。

この映画はハリウッドの製作部長モンロー・スター(ロバート・デ・ニーロ)が柄にもなく恋をしてしまつてすでに男のいたキャスリン・ムーア(イングリッド・ボルディング)に逃げられてしまふハリウッド・バックステイジ物語。

面白い、いいとこ、それは撮影所長(ロバート・ミッチャム)気ままな豪華女優(ジャンヌ・モロー)美男子でセクシイでマチネイ・アイドルのスタア(トニー・カーティス) マチネイ・アイドルとは若い女の子の熱狂的アイドル。ところがこの二枚目、私生活では不能で妻とはベッドは別の場所。そのほか撮影所見学団の案内人が「駅馬車」の(ジョン・キャラダイン)。気まぐれ女優の気げんをそこねてその映画の監督から下ろされる監督(ダナ・アンドリュース)。この映画会社のニューヨーク営業部本社の顧問弁護士(レイ・ミランド)。目下撮影中の映画の原作者(ドナルド・プリーセンズ)さらに映画作家組合の共産党(ジャック・ニコルソン)というわけでこの配役の面白さはかつてのセシル・B・デミル映画型だ。いいところを紹介すると人間を人間扱いない傲慢な製作部長つまりこれをプロデューサーと呼んでいいのだが、彼が原作者と口論する。原作者は(文字)で勝負。

ところが(映画)は目で見るシーンのことで勝負。またひと目見てその娘に心ひかれた。その名をきく。キャスリン・ムーア。その名でさらに参つてしまふ。それはスタアのムードをすでに持った名なのだ。原作が「華麗なるギャツビー」のF・S・フィッツジェラルドなのでメロドラマ型。それをカザンはメロにするかハリウッドのスタチオ・ド・キュメントにするかの中間でうろたえている。私もハリウッドで数人の有名プロデューサーに会ったことがある。サミュエル・ゴールドウインは「嵐が丘」その他ワイリアのあらゆる名作のプロデューサー。会えばやさしくて幼稚園の園長のごとしなのに、いったんスタチオに立つと出来上つたボスターの背景のバラ一輪が気に入らぬといつて全部をやりなおさせた。「ラスト・タイクーン」はこのゴールドウインやダリル・ザナックたちその巨人巨頭の(プロデューサー)の人間の内側にはいりこむ。

タイクーンとは日本の大君、大綱、太閤からきているときく、そんなボスが一人の娘に失恋した、そのタイクーンの人間の敗北を描いて面白いのだが、ハリウッドとかスタチオとかスタアとか撮影所長とか脚本家がもっと映画人種としてムンムン匂わないと。

最初の如く大正初期から新開地の活動写真館で育つた私ゆえにかかる文句も出たのであろう。しかし「ラスト・タイクーン」はやっぱり一見の価値がやはりカザン映画ゆえにあることは云うまでもない。

「ラスト・タイクーン」より



女体百景

細川

ただす
董

△文とえ／哲学者▽

65

入れ上げの女

入れ上げとは、入れて持ち上げる女の意ではない。入れるのは男で女は入れさせる方だ。それとも、ひよつとしたら、入れさせてグツと持ち上げる女の意かもしれない。いずれにしても、その時入れ上げられた男はいい気持になることに変わりはないのだから。

今年三十になる彼女は色白でまるポチャ。小柄で目のクリクリした可愛い女だが、さすが入れ上げの女。鼻っ柱だけは立派なもの、頑固一徹、人を食った所がある。その向う意気は大したものだ。

「私、夫と二十もちがうので彼を夫だなんて、今までちつとも思ったことないわ。お父さんという感じね」

「そしたら彼、何事につけても寛大でしょう」

「それで助かっているのよ。私を子供みたいにしか思っていないから、私が昔入れあげたアメリカの男の子から国際電話が今でもかかってくるよ。でも夫は何もいわないわ。夫にだって、ホステスから電話がいくらかでもかかってくるけど私も何もいわないの……」

今でも彼女は自分を現役の入れ上げの女と自認している。彼女は社長夫人として小使いに不自由せず、好きな若い男性に入れあげて楽しんでいれば幸せだというのである。

「別に家庭をこわさなきゃいいじゃない？ 入れあげて家庭がこわれるんじゃないよ。困るけど、そうでなければこんな楽しいことはないわよ。ほんとうの入れ上げ女というのは、入れあげたためにその人からどうこうしてもらおう

というのじゃないの。

例えばカルチエのライターをプレゼントしてそれで彼が別の女とそのライターで火をつけて煙草吸ってる姿をみて、蔭でニヤツとほくそえんで満足する。これがほんとの入れ上げ女なのよ」

「私、今までに入れあげた分計算したら総額二、三千万円になるかもしれない」

「一体、いつごろから？」

「高校の時」

「どんな風に？」

「そう。高校の時からクレイジーになっちゃったのよ。自分でも分ったわ。私はクレイジーだなんて」

「どんな男の子に入れあげた訳？」

「東大へ入りがってた貧乏な家の子がいたのよ。好きだったの。彼、アルバイトで勉強する時間なかったの。私どんなことがあっても彼を東大へ入れてやりたくて仕方なかったの。それで授業料や何やかや援助したかって……。彼東大へ入ったんだけど、そんなこと彼知らないかも……」

「昔入れあげたアメリカ人の男の子というのは？」

「私がスウェーデンに留学中、YWCAで知り合ったアメリカの青年なのよ。かっこいい青年だったので一緒に住まわしたげて三年ばかり、学費から何から何まで全部めんどろみみたげたのよ」

「あちらの方のめんどろも、当然、入れ上げたのでは？」



「いや。それが違うのよ。彼、ホモだったの。いつもにくらいぐらい仲のいい男の子と一緒に学校でもいるの。もちろん、洗濯から掃除かたづけ、何から何まで彼がしてくれるのよ。」

『洗濯するから何でも出して下さい』そういって彼、私の手をにぎってジッと私の目をみつめるのよ。そして私のパンティからストッキングまで皆洗濯してくれているの。しかしそれだけ。それ以上、絶対私の体を求めないのよ』

「求めてほしかったのに？」

「そりゃ、その気でしたけど、彼ホモなんだから。仕方ないわよ。いや、私は貢ぐだけで満足なんだから」

「打算であなたに貢がせたんじゃない？」

「そんなこと絶対ないわよ。彼だってすごく感謝してたわ。打算でつきあったのならすぐ分るわよ」

「どんな風に彼、感謝を言葉にあらわした？」

「そりゃ一緒に住んでいたんだもん。態度で分るわよ。今でも国際電話してくるぐらいだもん」

「分った。ところで現在は？」

「今は、私、近藤正臣に貢いだげようと思ってるのよ。主人も気を使って、朝会社へ出がけに、今日は近藤のテレビドラマの日だね？と聞いて行くの。早く帰って来ても近藤のドラマの日だと御飯食べさせてもらえないもんだから、ドラマが終るまで外で飲んで帰ってくるの。それで実は、こないだ傑作なの、セントジョージで毛皮シヨールがあったでしょう。」

その時、近藤正臣と山城新伍の二人がサイン会に来ると書いてあったものだから、せめてカルチェのライターをプレゼントしたげようと思って二日目に出かけたの。

そしたらどうだったと思う？ 山城新伍が出て来るじゃない。二人が二日間じゃなしに、一人ずつ二日なのよ。近藤は昨日だった訳。もうゲッソリよ。ダーとなっちゃった」

「山城新伍もいいじゃない？」



ぴっと・いん

★六甲に燦然と六甲クラブ

レング造りのシックな会員制クラブ「六甲クラブ」が、六甲ケーブルへと続く坂の途中に誕生。昼間は青屋から三宮までの街を見降ろし、夜は100万ドルの夜景。気取ったお洒落な会話がワインやブランドリーの香り



祝花に囲まれたオープニング

とともにテーブルに交う新しい社交場。でもフアミリな雰囲気、クラブにした「レオナー」の金沢さん。

11月12日のオープンには画家の中西勝さん、書家の望月美佐さん、アナウンサーの小山乃里子さんも出席して華麗なスタートだった。

入会金 個人5万円、法人10万円

灘区六甲台町6-22 電話882-13911 月曜休

(くわしいパンフレットご希望の方はハガキ又は電話でお知らせ下さい)

★あなたも王候貴族の気分が満喫できます

中世の古城を再現した夢とロマンのあるバブが三宮に誕生。鎧で身をかためた騎士の出むかえを受けるとあなたは中世の古城の賓客豪華で気品高い雰囲気なかで素晴らしい神戸の夜を楽しめる。しかも低料金。このムードでこの料金、キングアサ「だからできることだ。また、料理の味も格別。品も豊富で、食通の方にもOK。新年会をはじめ各種パーティにも利用できる。



あなたも中世の騎士に

キープボトル/舶来スコッチ各種
三八〇円、スコッチ水割三〇〇円
ビール三〇〇円、チーストレスト六〇〇円、エスカルゴブヴァンス風
九五〇円、キングアサスペースシャ
ルビアソテー一〇〇〇円、ビーフ
ポットパイ(英国風シチュー)一五
〇〇円
4:30PM/0:00AM 無休
神戸市生田区北長狭通一丁目五
(生田新道ビル6F)
電話321-2731

★ちよっぴり豪華な「City of City」



ゆったりした雰囲気

柳筋の一本目の道を北に
あがった建て物の2階、白
い壁に天井、天窓の明るい
コーヒールラウンジ「シテイ
オブ・シテイ」が10月に誕
生。タイル張りの大きなテ
ーブル、ドイツ製のカップ
やカットグラス陶器のメニ
ューとモダンな凝り方を
しているお店。

若くしてとーってもハン
サムなマスターと、ジャズ
の軽快な響きでいつまでも
落ち着いて座っていたくな
るようなとても神戸らしい
雰囲気のラウンジです。

コーヒ、紅茶、ジュース、ケ
ーキ各500円
営業時間 11:30AM/8:00PM
三宮町3丁目 電話331-1117

●神戸うまいもんとドリンキング

スティーキハウス
れんが亭
生田区下山手通二丁目34
(トアロード)
電話三二一七六八

「鉄板和紙焼」という独特の焼き方による神戸ステーキの味をお試しになりましたか。和紙で肉をスツポリつむことにより、肉汁が肉のエキスがとばないように。つまり、蒸し焼きにするわけです。こうして焼き上げた肉にれんが亭特製



のタレが合います。

このほどラベルのデザ
インも一新、鉄板焼ごま
たれ(甘口、辛口)、しゃぶ
しゃぶ酢たれ、しゃぶ
しゃぶ白たれの四種類が
あります。各三八〇円。
これからの季節に家庭で
使うにもってこいです。
京阪神有名百貨店、スー
パー、精肉店にあります

ムサシ

コーベ・三宮・セスター街

でんわ

331-3771
321-6340
321-6335

やっぱりうまい・むさしのとんかつ

あけまして
おめでとうございます
昭和53年元旦



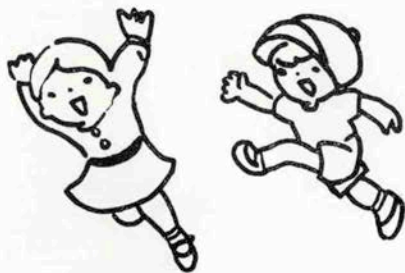
●こん立て
とろろ飯定食
お好み定食
天ブラ定食
おつくり定食
たかのり弁当
やよいの里
花そうめん
茶そば山かけ

和風季節料理

花

11:30A M~8:00P M 月曜日定休
さんプラザ地階 ☎331-0087

A HAPPY
NEW YEAR



こども
よい子のおともだち
カメヤをよろしく



おもちゃの

カメヤ

- | | | |
|-----------------|-----------|-----------|
| ■三宮方面でのお買物は…… | ファミリータウン | ☎391-4045 |
| さんちか店 | センタープラザ | ☎331-4969 |
| ■元町方面でのお買物は…… | 元町通3丁目山側 | ☎331-0090 |
| 元町店 | 元町1番街不二家前 | ☎391-0768 |
| ■神戸駅前方面でのお買物は…… | サンこうべ店 | ☎351-6002 |
| | 神戸駅前地下街 | |

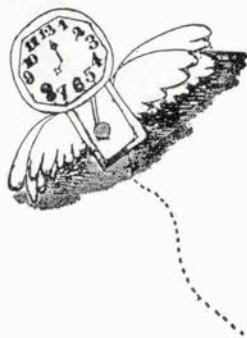
ハイセンスの紳士服で
最高のおしゃれを



三恵洋服店

神戸・元町4丁目 ☎(078)341-7290

神戸百店会
だより



謹賀新年

昭和五三年元旦

神戸百店会一同

★和風レストラン「あこや亭」住吉店がオープン

「あこや亭」第三店が、国道2号線の住吉川のそばにオープンした。

これは布引店、トアロード店についての開店で、1階はテーブル席、座敷。2階は個室。3階は大宴会や会議・パーティにも使える

特に特製手打ちうどんをふんだんに使った「あこや鍋」は大好評!

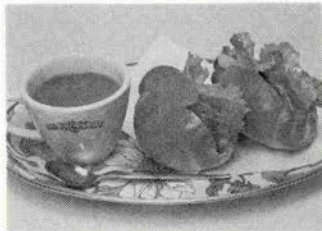
あこや鍋2000円/あこや弁当1200円/住吉弁当1200円
電話45313737



賑わったオープニングパーティ

★今日のランチは1弗で!

今、1ドルはいくらか御存知?といっても経済の問題じゃありません。センター街のユーハイム・コンタエクトの1ドルランチ。ランチドッグ2つと飲み物とがセットになっていてワンダラーというわけ。



これでしめてONE DOLLER

さて、今日のランチは

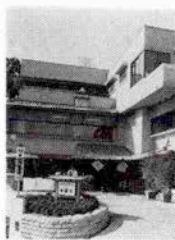
幾らかなー。あ、お払いは1ドル紙幣じゃなくって日本円でお願ひしますヨ。

三宮センター街東・山側 電話3312421

★見晴し抜群のお可川新店

てんぶらの「お可川」が北野クラブの南に、三階建

の堂々とした北野「お可川」(岡川伸夫社長)として11月26日に開店。



北野「お可川」

★エキゾチックな神戸には

日本情緒ゆたかな料理屋の大規模なものは少ないが舞台のある80畳の間を始めとして、大部屋や小部屋の他、素晴らしい神戸風景を窓から眺めてのお座敷でんぶらは気がいい。お弁当や会席、鍋物やお家芸の天ぷらと、昼一階椅子席で風見鶏・喜多野膳(二七〇〇円)もお手軽。

★元町が歌になりました

レンガ通りの神戸らしいショッピンングストリート、元町が、岩久茂作曲、うさみかつみ作詞の「センチメンタル元町」という歌になつて、内海みゆきさんの歌でキャニオンレコードより発売中。

元町商店街が105周年を迎えたのを記念して、フナキヤの安達昭三社長を中心に



内海みゆき

企画されたものだ。

● ショップトビックス

★北野クラブで、イーヤーズイブを12月31日の夜は、大人っぽく気取ってパーティに出席してみませんか? ショーやゲームで、「12年」に別れを惜しんだあと、12時(元日0時)にパッとすべての照明を消して3分間。暗闇の中に港から船の「ハッピーニューイヤール」の汽笛が聞こえてきます。ヨーロッパではその間に誰とでもキスヨ! 8:00 P.M. 12:00 P.M. (軽いお食事、税サービス) 3500円 電話23112251

★午歳です。馬というとエルメストアロードのクロスではエルメスのスカーフ、ネクタイを取りそろえておられます。スカーフで1900円。その他プロンス製の馬頭のノブとか、置き物とか、素敵な馬の形をしたものがいっぱい! 電話38111781

★宝飾のミキモト大飯店がオープン。梅田の新阪急ビルの1階です。電話06134110247

★レンガ造りの粋なビルに改装の神戸屋月堂の代表電話番号が変わりました。3215555です。今までの3212412も引き続き使えるそうです。

★冬の晴空にくるくる回る風見鶏というわけで、菊水絵本店からお馴染みの瓦彫餅に風見鶏の印を押した「風見鶏餅」が新発売。18枚入500円から

電話38210080

★オートクチュール装苑の今年の春夏傾向は、シルク、クレープの軽い素材、クリム、生成の柔らかな色。シンプルでベージュな仕立良さをモットーに。

電話33117550

★フアッションパークのニューイヤーズフェスティバル。1月4日獅子舞、518日初笑い寄席(出演桂春登他)。年の出発は陽気に笑つて!

ポケツトジャーナル



★第四回神戸五流能開催

秋の「神戸能」八観世流

と共に神戸における二大能として愛好家にとって、大変親しまれ、すっかり定着してきた「神戸五流能」が1月21日(土)午後1時から神戸文化ホールで催される能楽五流のうち、今回上演される能は金剛巖宗家の「巴」、観世元正宗家の「大原御幸」、金春信高宗家の「石橋」である。その他に五流仕舞「難波」「高野物狂」「花筐」「王之段」「鞍馬天狗」が舞われる。



「石橋」

これらは全て重要無形文化財保持者で、相当な迫力と華麗さのうちにも幽玄の世界へと引き込んでくれることでしょう。それに狂言

「彌山伏」で笑わせてくれるだろう。

入場料 S 五〇〇〇円 A 四〇〇〇円 B 三〇〇〇円 C 二〇〇〇円 学生一〇〇〇円 主催、神戸市

★第3回六甲全縦

国鉄塩屋駅を出発点に、



あるヶ、あるヶと歩く!

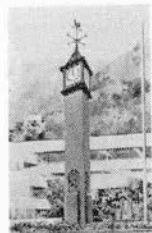
六甲山を縦断して宝塚まで約56キロを完走しようという六甲山全縦も今年で3回目。年毎に申し込み者も増え、今年は11月13日、23日12月18日の3回にわけて行なわれた。

今回の最年長完走者は77才の男性。今までの2回とも完走されたという立派な経歴である。また完走率も11月13日が雨天にもかかわらず前回並みの好成績。今年から一般市民に、ボランティアの形でパトロー

ルやチェッカーの仕事をしてもらい、市民参加の六甲全縦となった。

★新神戸駅に風見鶏時計

神戸というと風見鶏という昨今だが、神戸の表玄関新神戸駅前に風見鶏の付いた時計を東神戸ライオンズクラブ(島田五三郎会長)



風見鶏時計完成予定図

が同クラブ20周年を記念して市に寄贈した。

1月末に完成予定のこの時計、高さ10m、一辺1.2mのれんが造りで、4面に時計がはめこまれている。設計はそごう神戸店。

噴水があるだけの新神戸駅に、いかにも神戸らしい象徴が建つのは楽しみなことだ。

★蓄積から開放・創造へ

津高和一ミュージアム自邸で15年間続け、「個」のアーチストとしての立場を執拗に追求する津高和一画伯が、今年から建築家武田則明さんのアドバイスをうけながら、自庭・アトリエの開放からさらに、画廊も増設して「架空通信美術

誕生日
ありがとう

運動



運動参加者の声

毎日毎日全国各地から、本運動に心のこもった手紙や献金・古切手が寄せられています。本号では、この手紙の一部を、みなさんにお知らせいたします。

◇前略、先日、朝日新聞紙上で、貴運動のことを知りました。私はただ今、老人ホームにお世話になっています。明治三十一年九月十八日生まれの者です。何か世の中のお役に立ちたいと思っていますが、今の身分では思うにまかせませんので、十八日の誕生日に聲からいただいたお祝金誠に少々ですが義金の中へお加え下さいませ。貴運動のことを知りましたのが、つい先日のことだったので、今年から私の生あります限りはお送りさせていただきますつもりですからどうぞよろしくお願いいたします。

(大阪府羽曳野市 山口静子)

◇小学二年と三年のことも、古切手集めの楽しさを教えたいと思ひ古い手紙から切り取りました。そして、古切手の活用と社会福祉への糸口も。

(滋賀県蒲生郡 打田信彦)

誕生日ありがとう運動本部

神戸市葺合区御幸通八の一の六神戸国際会館一階の郵便局の隣 電話二五一八一―一六内線三二六



▲田中 混 (上)
◀津高和一 (左)

「回廊」と名付け、充実した生活と芸術と文化蓄積を開放し、新たなイメージと対話空間へと発展させた。

11月5日はそのオープニング。油彩、水墨、陶板など約100点近くがレイアウトされ、津高画伯の限らないアートへの情熱と生きざまの気迫が感じられた。午後1時から、田中混が「舞態」を約1時間、緑の芝生の上で踊り、光りと影の緊張した肉体駆使は見事だった。

★「アデュー」と「何処へ」
昨年秋的印象的なコマージュ、あの「ワインカラ」のときめき「の新井満の最新LPのご紹介。
一枚は新井満の唄で構成された「アデュー」。ヒット曲の他「戦艦ポチョムキン殺人事件」僕のワンダードッグ「地球の麦ワラ帽子」「どこへ」「なぜ」などのオ

リジナル作品や、古いシャソンが含まれている。

もう一枚は、青春と愛とさすらいに生きた6人の詩人、石川啄木、立原道造、竹久夢二、室生犀星、中原中也、北原白秋の詩を、新井満が選詩、構成、作曲した組曲「何処へ」を、五木ひろしが心こめて唄っている。作詞家の山口洋子との出会いから生れ二年がかりで完成した感動のLP。(キング各々2400円)

★音楽的レベルの高さを示した神戸の若者二人

第8回世界歌謡祭(ヤマハ音楽振



下村明彦さん 東京・日

本武道館で二十四ヶ国、四十曲を集めて開かれたが、下村明彦さん(24才・灘区在住)が自作の「自由になりたいために」を歌って入賞。オリジナル曲二百曲を持つ下村さんは、現在アルバムをしながら歌の勉強を続けているが、すでに神戸でリサイタルを開いたりして活躍中。その才能に期待されている。

また歌唱賞受賞の木村恭子さんが歌った大人の愛をテーマにしたスローバラード「スター」は、プレスリ

ド「スター」は、プレスリによって音楽開眼という五代文悟さん(30才・須磨区在住、本名・新森友幸)の作詞作曲。ともに音楽レベルの高い神戸に新しく誕生した音楽家だ。

★みんなトモチ!

G・W・BORSCHE (ベルリンフィルのピオラ第一奏者) 夫妻はドイツから、COLLETTEさんはフランスから、と鴨子ヶ原の中西勝画伯のアトリエは国際色豊か。カラヤンは世界一の指揮者、ナカニシは日本での一番の友人、4年ごと日本に来るのが楽しみ)と語るボルシエ氏は抽象画家としても活躍する才人、今回で三度目の来日。コレットさんはこの春、中西夫妻が渡仏した時に知り合ったお嬢さんで、ただ今、居候中。4年前モロッコで知り合った九州の青年もまたまた居合せ、なごやかな民間外交の一席とあいなりました。



右端ボルシェ夫妻を交えて楽しそう

美術ガイド



★県立近代美術館

中村忠二展

★南蛮美術館

開港神戸資料展

★KCCアートギャラリー

中野はるちぎり絵展

酒器展

★KCCギャラリー

第19回賀状展

★ギャラリーあじさい

元川嘉津美展

★ギャラリーあじさい

女流五人展

★ギャラリーあじさい

沢田文彦個展

★若屋きりーリール

カシニョール版画展

★さんち広場

お正月おもち・広場

第16回さんちち古書展

新春を寿ぐママのいけ花展

★ギャラリーさんち

第8回紅帽會書作展

第6回グループアーティスト展

日本・関西水彩画会展

新春婦人書道展

第3回六甲全山縦走立ナツ展

★そごう神戸店美術画廊

納税スケッチ展

★大丸神戸店 4階美術画廊

白塚香合展

京都の作家日本画展

備前陶芸後英10人展

樹井一夫油絵展

1/5/1/29

1/22/2/12

1/5/1/15

1/17/1/30

1/9/1/14

1/29/2/4

1/19/1/22

1/24/1/29

1/7/1/13

1/15/1/26

1/7/1/22

1/3/1/6

1/7/1/10

1/20/1/24

1/3/1/6

1/7/1/11

1/12/1/16

1/20/1/31

1/27/1/1

1/4/1/10

1/12/1/17

1/1/1/17

1/1/1/17

1/1/1/17

1/1/1/17

1/1/1/17

1/1/1/17

1/1/1/17

1/1/1/17

1/1/1/17

1/1/1/17

1/1/1/17

1/1/1/17

1/1/1/17

1/1/1/17

1/1/1/17

1/1/1/17

1/1/1/17

1/1/1/17

1/1/1/17

1/1/1/17

1/1/1/17

1/1/1/17

1/1/1/17

1/1/1/17

1/1/1/17

1/1/1/17

★午歳の馬のうまいお話

馬に乗った馬頭観世菩薩の祀られている青谷の妙光院は馬供養のお寺として名高い。競馬必勝の願掛けから馬の墓、4月7日の馬供養の儀式まである。午歳の今年は初詣で大賑い。ちなみに元町三丁目に場外馬券売場がある。

さて最近盛んになってきている乗馬。神戸乗馬倶楽部(青谷)六甲牧場乗馬クラブ(六甲牧場)鈴蘭乗馬クラブ(鈴蘭台)が神戸市内の乗馬クラブだ。乗馬スタイルはとて格好のよいもの。上手く乗れなくても着てみたいキョロットと長

花時計



「安定充実の年」

新春、昭和五十三年を迎える。午歳はいったいどんな年になるのだろうか。ご時世としては、不況そして円高とあって経済状況はあまりよくない。この年の間に一挙に情勢が好転するとは到底思

靴。シヤス(国際会館1階)中江物産(磯上公園北西)など店は多い。あぶみや蹄鉄のアクセサリーもある。



馬頭観世音菩薩

器の大きな馬がある。他にも白馬やブロンズの馬も。スマートな馬は大変絵になる姿。12月25日から31日まで大丸で馬の絵の個展を開いた坂口日出樹、1月5日から神戸時代で個展を開く岡崎陽子、二紀会会員と

なった犬童徹と馬ファン画伯は多勢いる。

お次は美味い話。牛肉の缶詰と偽って馬肉が売られていて問題になったこともあったがどうして、美味しいですよとある食通の弁。元町プラザ地下の「美少年」では馬サシを食べさせてくれる。本場熊本から取り寄せた馬の肉で100g 800円というから馬鹿にできぬお値段。夜の街の馬では花隈のスナッククレージーホース。生バンドの演奏が入る。そこで飲むのはもちろんホワイトホース?

とにかく皆々様、今年もうまくゆきますように。

えない、息苦しい環境が続きそうである。それは、さておいてある意味では、安定成長体制に対する身構えというものが整えられてきているという見方もある。

昨年末も神戸名物、六甲山縦走が盛大に行われた。全長56km、舞子から宝塚までの六甲山系の縦走である。

参加者も年々増え、およそいままでのレジャーの楽しみ方とは趣きがちがう。

確かに余暇への対応が変ってきている。

心の安定がみられるようになっている。高度成長期のモノ時代と低成長時代のココロへの変化がはっきりと浮き彫りされてきている。

社会的にも文化への志向が強くなってきている。それは、自治行政にも経済界にも、及んでいる。

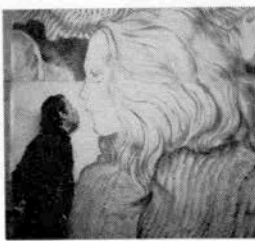
いわば世界情勢のなかでもはつきりとして出てきている。いままでのように経済一本槍ではいけなくなつた、それは竹槍で突撃するのと変らない。

それが判然と表面に出てくる年になる。△Y▽

●KOBE POST

★元永定正タビストリー展が、東京銀座和光で、11月25日/12月3日まで開かれました。あのユニクな明るい色のコントラストが、タビストリーとして生活の場に入らって楽しいですね。

★石阪春生さんの「女のいる風景」がイタリアでモザイクの壁面に制作中。大阪のビルの外壁にはめられます。たて9mの立派なもので12月下旬完成予定。



イタリアで製作中のようす

★兵庫県立近代美術の館長補佐事業課長の増田洋さんが須磨へ転居
新住所は、〒654神戸市須磨区月見山本町1-2-2 ☎078(735)3001

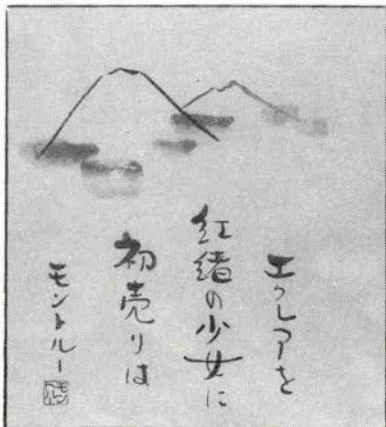
★朝日放送のディレクター須田博文さんが10月1日に東陽子さんと結婚。新居は〒659芦屋市朝日ヶ丘2町8-1-70 ☎0797(32)2853 目下「タイムム」でハリキっています。

★サンパの好きな武内俊子さんが兵庫県議会事務局から、衆議院議員・永田亮一事務所(西宮市鳴尾町3-2-19) ☎0798(47)1410へ勤務先を移って再出発。おめでとうございます。

★西宮市大谷記念美術館では1月14日から2月12日までロココ展を開催。 ☎0798(33)0164 先着30名に招待券しあげます。申し込み先、神戸っ子まで。

MONTREUX

スイスの味モントルーが
岡本にオープン!



浅井綾子

今月のお菓子



芳ばしい栗の味
マロン・ザーネ

モントルー

芦屋本店 / 芦屋市公光町9-7 (阪神芦屋駅前)

TEL (0797) 31-1781

岡本店 / 神戸市東灘区

岡本1-10-16 (阪急岡本駅
西100米 第二アカギビル)

TEL (078) 451-8891



あけまして おめでとう ございます

●1978年 元旦●



神戸っ子に愛されるエレガントな毛皮の数々

子ン子ラ

神戸・三宮センター街東入口 スタイルパレス3F
TEL 078-391-4457

姥捨

奥野 忠昭
え・題字 犬童 徽

車は土壁や泥色の屋根に挟まれた細い道を抜けると、碁盤目模様交错するアスファルトの道に出た。

遠くの丘まで視界が開け、白い壁、山小屋風の赤い屋根、広いトウモロコシ畑、公園のテニスコートが見えた。それらはみな、雲のない空から洪水のように降ってくる明るさに照らされ、白い炎をたてて燃えていた。

「もうすぐだ」

息子は坐席から身をのり出し、大声をあげたが、バックミラーに映る母の姿は車に乗ったままの形を崩さない。じつと前を見つめたまま無表情を続ける。

「うれしいな。うれしいな。きょうから新しい家だもん」
息子は手を打って喜ぶ。その手の中からも白い光の粒が、一瞬、火花のように飛び散った。

「かわいそうに。なんにも知らないで」

母がつぶやくが、息子はそれを無視する。

アスファルトの道は眩しい。ときどき、鋭く陽を照り返す。目の前が白くなり、何ものも見えなくなる。

「あそこ、あそこ、あそこをずっと行ったところ」

息子は母の顔を覗き込むが、母は眉ひとつ動かさない。手をひざの上に置き、真すぐ前を見続ける。

路の真中に土色の塊を見つけ、あわててブレーキを踏んだが、すぐにそれは車体の裏に入ってしまった。でも、それは押しあげられた鼠の死体にまちがいない。綿のような腹の毛、粟色の胸、尖った口、ゴムのような膚、そのどこにも死体の生ま生ましさはなかった。棄てられた靴とまったく同じような死体は、ただ一瞬見ただけなの

に、ぼくの前にぶらさがって見える。

ぼくはアクセルを踏んだ。車はいくぶんスピードを増した。クリーム色の家、建築会社の看板、コンクリートの電柱。同じようなものが激しく後へ飛んだ。車は誰も通っていない道スピードを出して走った。

「あそこだ、あそこ」

すでに、二、三度家を見に連れてきた息子が一番にそれを見つけた。

涼子が道に出て手を振っているような気がした。まわりから降ってくる光を浴びて、にこやかに微笑んでいる姿が見えた。

こんな正午に来るべきではなかった。陽の中に佇む涼子など見たくなかった。今までの涼子がすべて崩れる。ちがった涼子を見るのは怖ろしい。

家はだんだんはつきりと見えてきた。それは隣りの大きな家に寄生虫のように寄りそって建っている。だが涼子の姿はなかった。

「ああ、あそこです。広い家のむこうの」

息子はぼくの反応に満足したらしく助手席に腰を落ちつけたが、母はどこをも見ず、不気嫌に緊張していた。

「いいところでしょう、案内」

ぼくが言った。

「あなたはこんなところが好きかね」

母はつぶやいた。

「新しい家なんだよ。新しい」

息子はもう我慢できないというふうに激しく母の膝を

ぶった。

「おばあちゃんには関係ないからね」

「どうしてよ。おばあちゃんの部屋もちゃんとあるんだよ」

「おばあちゃんの部屋ね」

母は汚れたハンカチで涙を拭いた。それはぼくにはあてつけに思えた。

「新しいお家に行くのにどうして泣いたりするの」

「きつと前のお家になつかしいんだろう」

「そう、おかあさんの思い出があるものね」

ぼくはまた激しくエンジンを噴かせた。ふたりはソファアの背に倒れた。

涼子と母、涼子と息子をどう結びつけるか、ぼくと母、息子と母をどう離すか。ぼくがこれからしなくてはなら

ない多くの仕事を思った。それらはみんな自分には重すぎると気がした。

家の前まで来た。洋風の家の隣りに、ほとんど凹凸のないちっぽけな建物が、大きな影の中に静かに沈んでいた。ぼくはほっとした。明るさに包まれた家など見たくなかった。できれば闇の中でぼんやり浮いているような家に住みたかった。

「遅かったですね」

「ええ、ええ、ご近所とのご挨拶に時間をとられてね」

母は笑いを作るのに苦労した。それは作っても、作ってもすぐに消えた。

「これが涼子です。それから母」

ふたりは頭を下げあった。母は顔から足先まで視線を這わせ、涼子は肩を落として嘆息をついた。



ぼくは公園の方を向いた。グリーンの方網にそって夾竹桃の木が植えられ、それに見えかくれしながらシーソーが見えた。夾竹桃の葉からもシーソーからも激しく陽炎がたっていた。ぼくはそれらに向って唾を吐いた。唾は銀色になってアスファルトの道に落ち、すぐに乾いた。

息子はすでに二階の窓から顔を出し、こちらにむかって手を振っていた。何か大声をあげている。涼子もそれに応じて大きく手を振ったが、それを見ている母

の頬は激しく凹み、青く髣つた。

「さあ、さあ、荷物を入れましょう」

涼子はさっと車のドアを開いて、最後の引越しの品物に手をかけた。母は振り向いてそれを見つけ、あわてて持とうとしたが、涼子はそれを離さなかった。すぐに玄関の方へ向きを変えると肉のつまった臀部を大きく振ってさっと家の中に入ってしまつた。あの箱には母の化粧道具が入っている。母は自分の物を他人に持たれるのをひどく嫌がった。最初から涼子に嫌悪を抱いたのではないか。なんと気のつかない、横柄な女だと思つたのではないか。ぼくが小さな風呂敷包みを取り出すと、母はそれを引ったくり、これだけは誰にも渡さないというふう

に胸の中に深く抱え込んだ。

「あなたが洋子さんより好いたんだから、もう少し美人かと思つていたよ」

「美人じゃないですか」

「そりや、人は好き好きだからね。でも、どこが良かったんだい」

「おかあさんが顔にやかましいなんて知らなかったな」

ぼくは車の後ろの棚にほうり投げであつた薄汚れた枕をひとつ取り出すと玄関に入り、二階への階段を登つていった。

二階では息子が畳の上に坐つてマンガ本を読んでいた。彼は本から眼を離すと、ぼくの抱きかかえているものを見た。

「ねえ、おかあさんの持つてこなかったの」

彼は不満そうにそう言つた。ぼくは不意をつかれてたじろいだ。

「あれは誰も使わないだろう」

「でも、あれの方が大きくなって、ふんわりしてよかつたのに」

「でも、これはおばあちゃんが作つてくれたものだから」
以前、前の妻と結婚するときも、母は何もお祝いをし
てあげられないからといつて大きな枕をひとつ作つてく

れた。最初にぼくたちが床をとつたとき、それを妻に告げた。妻は青さめ、なにか怖ろしいものを見るような顔付をした。いやなら別のに変えてもいいと言つたが、おかあさんがくださつたのだからしかたがないわといつて彼女の持つてきた枕を押し入れに入れてしまつた。

それ以来、枕だけは常に母が買つた。こんども、それをどこかに捨ててこようと思つたが、母はそれを車の中へいの一番にほうり込んだ。もう一度それを取り出し、捨てて行くことだつてできたのだが、いらない摩擦はさけたかつたし、それに固執する母の心情も哀れに思え、そうはしなかつた。母はぼくも孝も失なうのだから枕ひとつぐらい家の中に置いてやつてもいいと思つた。

ぼくはベッドを見た。そこには幸い涼子の枕だけしかなかつた。以前、涼子の家にもぼくの枕があつたが、夜中に帰るぼくをのしつて、ガスコンロの上でそれを焼いてしまつた。涼子はそれを母が作つた枕の横に置いた。すると、不意にそこに母が横たわつていような気がした。なんだかぼくがそこに寝るごとに、母と重なつて眠るような気がした。

車は広いアスファルトの道をゆるやかに走つた。その移動の軽やかさが心を徐々に溶かし始め、ぼくを取りまいていた諸々の糸を取りのぞいてくれた。それは雨雲の中にあいた小さな雲の切れめだつた。こんな瞬間があることに驚き、このような自由さを久しく味わつたことのないことに気づいた。

ぼくは大人だつた。いやおうなく関係の網の目につかまつてしまふ。拭つても拭つてもからみつく粘っこい糸に因われてしまふ。

アクセルを強く踏んだ。車がすこし揺れ、周囲の風景がすばやく飛び始めた。

何度か涼子に乗せ、暗い道を疾走したことを思い出した。あのときは影の中の自由さや黒い解放感を味わいながら走つたものだ。はじめて涼子に乗せたときのことを今でもはつきりと覚えてい



やや、頬を赤らめ、首を少し
ふりながら言った。

「きつとまた今晚もそうなる」

「大げさな」

ぼくは苦笑した。こんどは洋
子がテーブルの下で足をふんだ
でも、ぼくはやはり心配した。

いつもとちがいがい、きょうの話に
は真実味が籠っていた。

何度も母はそのようなことを
言い、いままだ倒れたことがな
い。洋子がまたいつものいやが
らせだと思ってもしかたがない
でも、そうだからといって、そ
れがうそだとは決めかねた。少
し大げさかもしれないが自分の
命にかかわるようなことはみん
な多少はそうなるものだ。それ
にぼくは病気に對してきわめて

憶病だった。おまえが小さいとき何度も死にかけたと言
った母のことが頭の底にこびりついていて、病気には
きわめて敏感だった。

「ね、電話をとってくれない」

「電話」

ぼくの部屋には電話があり、母は十歩と離れていない
簡易建築の部屋で寝ている。

洋子はますます不眠そうに下を向いた。きつと、あの
部屋に住まわせたことへの不眠ととったにちがいない。
あんなふうにするればきつと母は気づくだろう。いや、そ
れを表したいのかもしれない。でもそうすると母はまた
別の方策で対抗するだろう。もう少し母の気持ちを探し
てもらえないものか。だが、洋子はいつそう下をむき、
皿の上ではしを止めた。

「この部屋で寝ていたら、そんな心配はいらないのだが

母はその日、夕食をひと口も口にできなかった。ぼくは
少し気になって、どうしたのかと尋ねた。少し気分が悪
いし、それにこのところずっとおなかの調子が悪いのだ
と告げた。洋子はなにも言わないで食事を続けていた。
からだの調子が悪いのだというのはいつもの母の口癖だ
った。

「それに心臓だってこのごろは止まるんだよ。夜寝てて
も突然心臓が速くなり、しばらくするとふっと気が遠く
なるんだよ」

「それは大変だ」

ぼくが言った。母は満足げだった。洋子はぼくをちら
つと見て合図を送った。母がそれに気づかなかったかと
ぼくは怖れた。

母はぼくの方を見続け、和服の上から心臓を押えた。

「どう、今だっていつもより速いのや」

ね

「あのお部屋が寒くって、寝ていられないとおっしゃったものですから」

涼子が初めて言った。

「そら、そう言いましたよ。でも、あなたたちのそばにいつもわたしがいるのがいやだろうからと氣を使つたぐらい察してもらえないでしょうかね」

「わかっていますわ」

「電話をつけるの、お金があるのでいやだったら、わたし、この部屋に帰ってきたってかまわないですよ」

涼子は食べるのをやめた。

「わかった、わかった。電話をつけるさ」

母は何も食べないで下を向き、涼子も食器の中へ涙を落とした。ぼくは二人の中で腕きながら縮んでいった。

「なんだか疲れているみたいね。元氣を出さなくっちゃ」

涼子がきょう会社で声をかけてくれたことを思い出し、

「あなたを見ていると、どうしてだか、いらいらしてくるのよ」ともつけ加えた。

ぼくは黙って玄關を出、赤電話で涼子呼び出した。

涼子もすぐにそれに応じやってくる、初めてドライブした。

ぼくは車をもとにもどさねばならないと思った。あのときと同じ道と同じ気分で行っている気がした。自分は何も変わってはいない。ひとつの事を起こしながら、またもや同じことを繰り返す。まったく墮落を犯している。

ぼくは再び家の前へ帰ってきた。門の前で涼子は佇んでいた。ぼくはどこか車を置く場所をさがしながら涼子の視線をさけた。だが涼子の方はぼくを追った。小さな公園のわきに車を止めてゆっくり帰ってくる、涼子は走ってきてぼくのひじを強く掴んだ。

「あなたうそをついている」

少しつりあがった眼をいっそうつりあげ、異常な熱氣を出していた。

ぼくはとまどった。うそならいくらでもついている。しかも、ぼくのうそはどれもいじましい。ちよつとした摩擦をさける姑息なうそ。うそをついたからといって、ぼくは何も得をするわけではない。その場をうまくとりつくり、解決を少し延期するだけのものだった。

「涼子さん、美人だったって言うじゃない」

涼子は激しく言ったが、ぼくはほっとした。涼子は別に不美人ではなかったが美人でもなかった。

「うそなんか言っていない」

「でも、おかあさんがおっしゃっています」

「母が」

「そう、この子なかなかいい顔をしていますわねと言つたら、ああ、母親が美人だったからねとおっしゃったわ」

「へえ」

ぼくはとぼけることで急場を逃げようと思った。そのような態度が身にしみついてしまっている。

「あの子の顔を見るごとに、涼子さんの顔を思い出さねばならないの」

「どうだつていいじゃない。そんなこと」

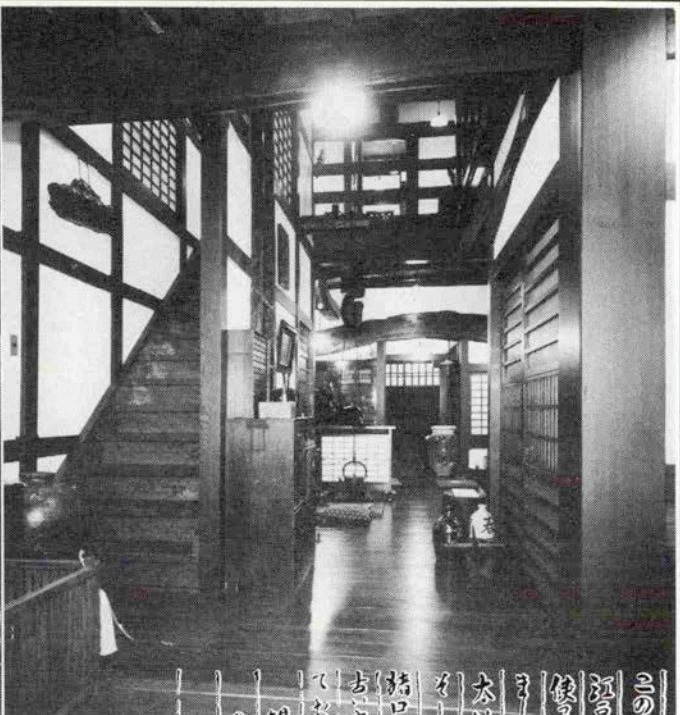
涼子はくるつと後ろを向くとおおまたに玄關に入つていった。彼女の後に風が渦まき、憤怒の匂いをかきまぜた。

彼女は今だに涼子と抗争しようとしている。ばかげたことだが、ぼくにもそれが解かるような気がした。だが涼子を美人だなどと母が言うのを聞いたのは始めてだった。額の狭い、鼻の長い、いやらしい顔だ。あれはいじの悪い心の表れだなどと悪態をついておいて、いまさら何だろう。あれはうそをついていたのか。それとも、いまうそをついているのか。

(つづく)

△編集部より▽

第二回神戸文学賞受賞作品の「姥捨て」「生活」はスペースの関係上、新年号から分載いたします。



三の度神戸で二百年来の風雪に耐えた
 江戸時代の田舎ある豪農の民家か古材を
 使った炭焼ステーキのお食事処を建て、ふ
 きりた。二メートルに及ぶ積雪にも揺らかなか
 た。太田重木合掌造りの屋根裏す、竹
 もく古丹波の壺と徳久利古伊万里は
 猪口等々自在釣のあり圍爐裏裏端にはほんの
 古くはまもち合二味わっていたきたと聞つ
 ております。

場所は元町三丁目商店街にも播磨骨董店
 の裏を通ります。

お席には是非お立ち寄り下さい。

炭焼ステーキ

圍爐裏

五事

神戸市生田区元町三丁目四十六
 電話 三九一—三二五六

■姉妹店

珈琲 さん
 トアロード
 電話 三九一—一五八九

